

南相馬市 市民意識調査 調査結果 (暫定集計) 【概要】

 調査概要

1 調査の目的

現行の「第 2 次南相馬市復興総合計画 (後期基本計画)」の各施策に対する取組の評価を実施し、本市の抱える課題を整理・分析するとともに、令和 4 年度に策定する「(仮称) 第 3 次南相馬市総合計画」をより市民ニーズを的確に反映した計画とするための基礎資料として活用することを目的とし、調査を実施した。

2 調査期間

令和 4 年 4 月 26 日 (火) ~ 令和 4 年 6 月 7 日 (火)

暫定集計には令和 4 年 5 月 25 日 (水) 回収分までを含む。

3 調査対象

本市に住民登録をしている 18 歳以上の市民のうち、無作為に抽出された 3,000 人

4 調査方法

設問法による無記名のアンケート調査 (郵送配布・郵送回収・調査票に記載の URL や QR コードからの WEB 回答併用)

5 回収状況

配付数	郵送回収数	WEB 回答数	有効回収数	有効回収率 /
3,000	1,038	197	1,235	41.2%

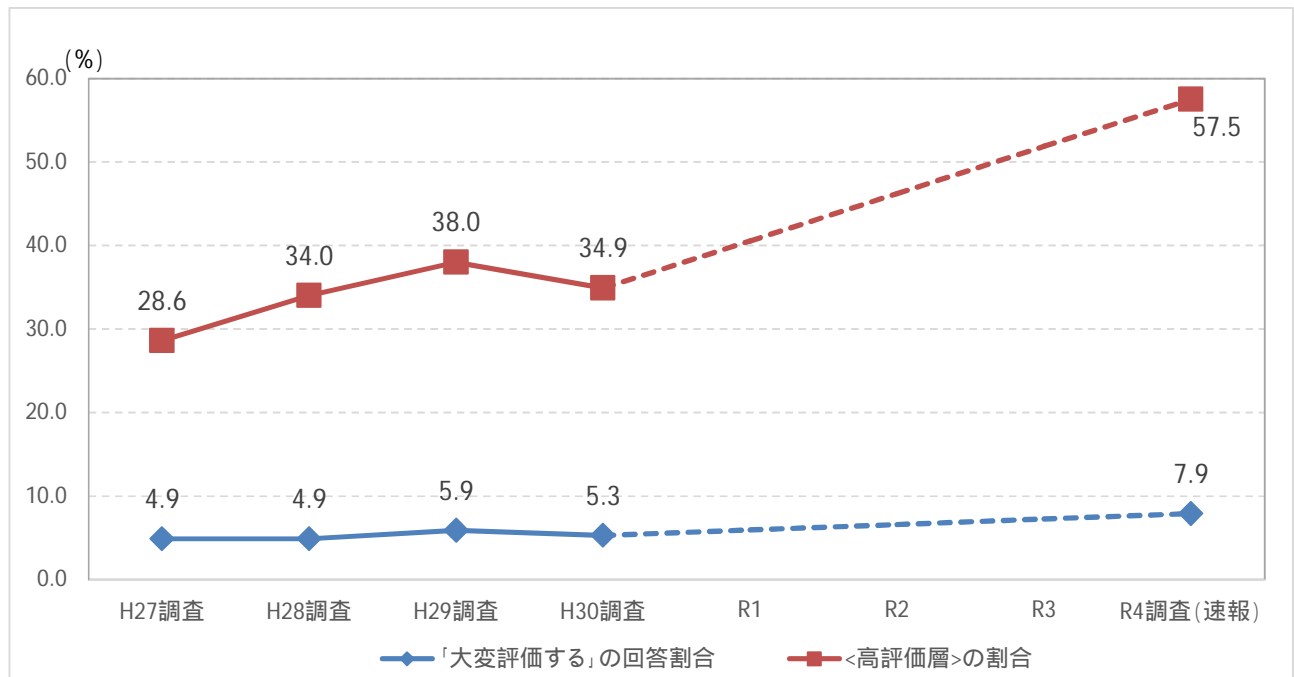
平成 30 年度調査の有効回収率は 43.4% です。

調査結果の概要

(1) 復興への取組に対する総合的評価

市の復興への取組に対する総合的な評価について、「大変評価する」は7.9%と、平成30年調査(5.3%)より2.6ポイント増加しています。「やや評価する」(49.6%)を合わせた『評価する』と回答した《高評価層》は57.5%となっており、平成30年調査(34.9%)より22.6ポイント増加しています。

【市の復興への取組に対する総合的な評価】



第2次南相馬市復興総合計画は、平成27年に基本構想を策定し、平成31年に前期基本計画の終了を1年前倒し現行の後期基本計画を策定、計画期間についても復興をより加速させるために1年間短縮しました。その結果が、当該項目の評価へと繋がっているものと考えられます。

現行の基本構想の目標は一定程度達成され、復興関連施策が一定程度評価されているものと考えられることから、復興の次のフェーズを見据えた新たな目標設定が必要になっています。

(2) 現在の生活の不安や心配

生活の不安・心配については、平成30年調査と比較すると、全体の順位に大きな変動はなく、不安があると回答される割合は少なくなっています。

特に「放射線による人体への影響」は6.4ポイントと減少するなど、復旧・復興に関連する項目について、落ち着きが見え始めた一方、「生活資金の確保」、「仕事や雇用」、「市の情報不足」については2ポイント程度増加しています。

新型コロナウイルス感染症やロシア・ウクライナ情勢などに起因した、経済・社会情勢の変化等による、日常生活に関する項目への不安が新たに顕在化していることも考えられます。この点においても、市民の不安(ニーズ)を解消するための取組を検討していく必要があります。

【生活の不安や心配ごとについて】

生活の不安・心配	単位(%)		
	R4調査 (速報)	H30調査	R4-H30の 差
医療・健康	47.6	51.7	-4.1
介護・福祉	34.7	36.8	-2.1
体調面や健康面(放射線以外)	34.3	36.8	-2.5
生活資金の確保	29.8	27.4	2.4
放射線による人体への影響	28.3	34.7	-6.4
仕事や雇用	22.0	19.3	2.7
子育て環境	12.8	15.6	-2.8
教育環境	10.8	11.7	-0.9
市の情報不足	10.2	7.9	2.3
知人・友人が近くにいないこと	9.8	11.7	-1.9
東日本大震災・原発事故からの 自宅の復旧	8.7	11.4	-2.7
原発事故の賠償・補償金の問題	8.5	12	-3.5
家族が離散していること	7.8	11.9	-4.1
その他	6.6	2.9	3.7
特になし	9.3	9.4	-0.1
無回答	1.1	1	0.1

平成30年度市民意識調査 (n=1,303)

(3) 今後の定住意向

南相馬市への定住意向については、「市外で暮らしたい」が5.7%と、平成30年調査より5.7ポイント減少したものの、「南相馬市で暮らしたい」は72.8%と1.7ポイントの増加となっており、「わからない」と回答した不確定層が20.8%となり、5.6ポイント増加しています。

「わからない」と回答している層が、より積極的に「南相馬で暮らしたい」と思えるような取組を展開していく必要があります。

【今後の定住意向】

将来も南相馬市で暮ら たいか	R4調査 (速報)	単位(%)		
		今後も南相馬市で暮ら したいか	H30 調査	R4- H30の 差
南相馬市で暮らしたい	72.8	そう思う	71.1	1.7
市外で暮らしたい	5.7	そうは思わない	11.4	-5.7
わからない	20.8	わからない	15.2	5.6

平成30年度市民意識調査 (n=1,303)

(4) 「第 2 次南相馬市復興総合計画 (後期基本計画) 各施策の「現在の満足度」と「今後の重要度」

「第 2 次南相馬市復興総合計画 (後期基本計画)」で進められている各施策について、「現在の満足度」と「今後の重要度」を回答いただき、各施策のスコアを算出し横断的に比較しました。

スコアは以下のとおり各回答を点数化し、その合計を回答者数で除することで算出した。また、全項目の満足度と重要度の平均値を境とした相対的な評価を記した。

「満足/重要」= 100 点、「やや満足/やや重要」= 75 点、「どちらともいえない」= 50 点
 「やや不満/あまり重要ではない」= 25 点、「不満/重要ではない」= 0 点

基本施策について、満足度が低く、重要度が高い『優先的な対応が必要』な項目は、「地域医療」、「都市基盤」、「商工業」となっています。

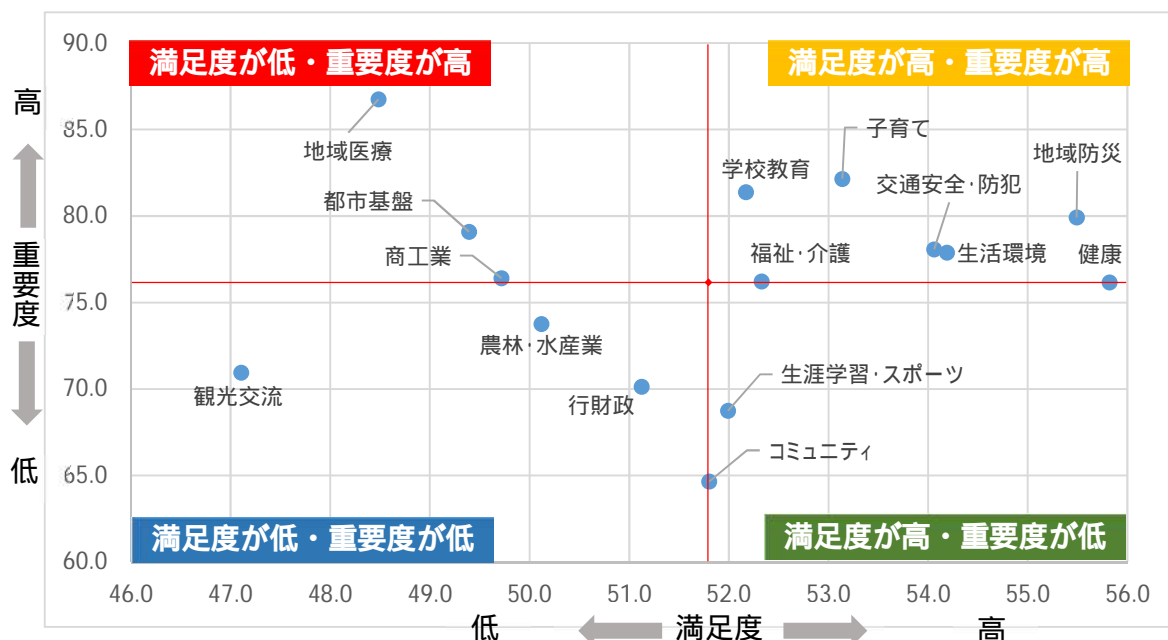
満足度も重要度も高い『重点的な対応の継続が必要』な項目は、「学校教育」、「子育て」、「地域防災」、「交通安全・防犯」、「生活環境」、「福祉・介護」、「健康」となっています。

満足度が高いものの、重要度が低い『現在の対応の維持が必要』な項目は、「生涯学習・スポーツ」、「コミュニティ」となっています。

満足度も重要度も低い『市民ニーズの動向を注視しながら、状況に合わせた対応が必要』な項目は、「観光交流」、「農林・水産業」、「行財政」となっています。

特に『満足度が低・重要度高』、『満足度高・重要度高』の項目は、今後の重要度から注視すべき項目です。また、『満足度』が低い項目はその理由をしっかりと検証し、対策を検討していく必要があります。

【第 2 次総合計画の実施策の満足度/重要度】



対象者が回答した 47 施策の満足度、重要度について点数化し、15 基本施策にまとめたものの相対的な評価基準とし、満足度、重要度の平均点を赤線で示した

本市で生活する「満足度」を向上させることで、より定住を促進するとともに、市外の方からも「このまちで暮らしたい」と憧れ、選ばれることによって、新たな活力を呼び込むことができるよう、ニーズを捉えた施策実施が重要となっています。復興の次のフェーズに移ることで、住民ニーズも社会情勢等に合せた変化が生じていることなどを踏まえた施策検討が必要となっています。